

「パパ北さんの子育て生活」

PapaのLife

北佳弘さん



広島で、父親の子育て支援を行っている北さん。近年「女性の活躍」が叫ばれる中で、男性の育児参画は非常に重要です。「主夫」という生き方を選んだ北さんの経験の中に、パパの育児のヒントがあるのでは？ということで、先月号に引き続いて北さんの子育てについて伺いました。



—先月は、北さんがどのような経緯で主夫になったのか、という話を伺いました。今回は、お子さんが入園してからの子育ての様子について聞かせてください。

北さん…子どもが幼稚園に入るまでは、家庭という場所が一つの社会で、僕たちはその中で暮らしていました。子どもたちには、なんの疑いもなく、父親が家にいて、母親が外で働く、ということが受け入れられていました。ですが、幼稚園に入ってみると子どもの社会というものもありますから、その中で少しずつ疑問は持ちはじめたかと思っています。

—幼稚園での子どもの社会で。

北さん…例えば、日々の子どもの同士のやりとりの中でもそうかもしれませんし、参観日には「多くの子がお母さんが来ているのに、うちはお父さんだ」

—ちょっと気分も変わりますもんね。

北さん…それから、僕がそのころから父親の支援活動を始めました。それまで、ブログを中心に情報発信をしていたのですが、公民館を会場にキヤラ弁教室を開くようになりました。打ち合わせの多くは休日にあつたので、その際には子どもと一緒に連れて行きました。そうしたところで、お父さんと社会との関わり、やお父さんも仕事をしている、というのが子どもに見えて、「しつかりしない」というところにつながったのかもしれません。

—北さん、家事などもこなしながら休日は活動をしていたんですね。しんどくはなかったですか？

北さん…自分で発信したい！という思いが強かったため、むしろ楽しかったですよ。

—なるほど。少し話が戻りますが、幼稚園など子育ての現場では、やはりお母さんがメインになるなど女性が多いですね。その中で、社会との関わりにくさなどは感じませんでしたか？

北さん…そうですね。幼稚園に入る以前の子育ての中で、初めてオープンスペースに入るときなどは緊張しましたし、女性が多くて入りづらいなあと思いました。

だとか。また、うちはよく一歳下の次男を園庭開放などにも連れて行っていましたから、「あれ、うちはよそとはちょっと違うな」というような。

—「なんか違うぞ」と。

北さん…はい。

—何か、そうしたことをお子さんに言われましたか？

北さん…まだそれを言葉にできるような年齢ではなかったため、それはなかったです。ですが、多分感じていたんだろうな、と思います。それが爆発したのが、長男が年少から年中に進級する3月のことでした。朝、いつも通り妻が仕事に行こうとしているのに、ひっついて離れなかったんです。

—お子さんが小さいころから、積極的に外にも出て関わりを持っていたことが役に立ってたんですね。

北さん…周りはお母さんが中心の子育てがまだまだ多いと思うのですが、子育てをしながら心掛けていたこと、また、お父さんだからこそできた、かなあと思うことってありますか？

北さん…いつも大切にしてきたのは日々のことに変化を持たせて、自分自身も楽しむ子育てです。2人の子どもを連れて、近隣のスポットのほか、旅行などによく行きました。日帰り旅行や、少し大きくなってからは泊6日で大阪や滋賀に行く遠出の旅行もしました。このようなアクティブで機動力のある動きができるのは、体力のあるお父さんならではかもしれませんね。ネットで子どもが楽しめる場所の情報を集めて、晴れの日はもちろん、雨が降ったときの場合の大きめのオープンスペースなども調べておきました。年齢とともに出かける場所も変わっていく、計画を立てるのはとても楽しいです。

—いろいろなところに連れて行ってもらうと、子どもたちもうれしいですね。

最後にほかのパパに比べて、ずっと子どもの

—あらら。それはどう対処したんですか？

北さん…そこは、きちんと仕事をしなきゃいけないから、という話をしっかりと、納得したようでした。それが一カ月くらい続き、ちょっと「本当に主夫という選択肢を選んで良かったのかな」と思ったこともありましたが、やっぱり、ほかの子と比べて、お母さんに甘えづらかったというのはいったんはあつたと思います。

—こうしたことは、どういふふうで解決していったのですか？

北さん…自然になくなっていきました。特に長男は年少から年中になったことで、「一つ「お兄さんになった」という自覚がわいたのだと思います。それまでも弟はいましたが、園での進級で気分一新といえますか。

—近くにいた北さんからみた、子育てで楽しいことを教えてください。

北さん…成長を身近に見られますし、「コミュニケーション」も取りやすいのがうれしいです。今、上の子たちが大きくなり、友達と遊ぶことの方が多くなっているのを見ると、しつけや子育てって、やはり小学校に入ることまでの期間限定だなあと思います。この時間をしっかりと一緒に過ごさせて良かったと思います。

—子どもが小さいとパパも仕事に夢中で、気付けば子どもがママのところにはばかり……。と、トホホなことにならぬよう、パパも積極的に関わり、期間限定、といわれる子育てを楽しみましょう。

週末は、お出かけなんていかが。



Next number

今回は北さんが取り組む父親の子育て支援活動について、どのような経緯で社会との関わりを作っていったのか。今の広島のパパたちの現状は？北さんにお話をさせていただきます。